

桜も高齢化対策

剪定／肥料注入／基金設立

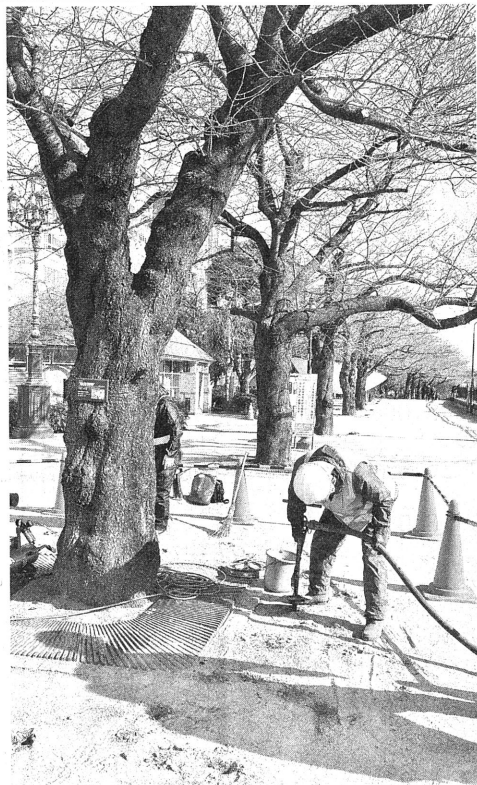
各名所で再生事業

都内の桜の名所で、大規模な再生事業が進められている。いずれも植えられてから半世紀前後が過ぎ、高年齢化に伴って木の生育障害が目立っているためだ。枝を大幅に剪定したり、根元を掘って肥料を注入したりと、美しい花を多くのの人に見てもらうための対策が施されている。

■台東区
隅田川沿いにある台東区立隅田公園では2017年度、枝切りなどの対策が本格化した。

約10分の公園には現在、ソメイヨシノなど22種類、512本の桜の木がある。多くは、都から公園の管理が移管された後の1980年に植えられ、樹齢は40年を超えている。16年の樹木の専門家による調査では、樹齢を重ねたことにより、

●桜の木の近くの地中に、液体の肥料を注入する作業員ら(隅田公園で) ●黒羽泰典撮影 ●桜の見頃を迎えた隅田公園。樹齢が40年を過ぎた木が多くなり、再生計画が進む(台東区提供) ●2014年撮影



た。区によると、こうした大がかりな作業はこの地に植えて以降、初めてという。今年4月以降は、1本ずつ生育状況を管理し、枝の刈り込みも随時実施するという。担当者は「息の長い事業だが、桜の名所を守っていきたい」と話している。

■目黒区
目黒区では、区内の路上や公園にある約2300本の桜のうち約1000本が、10年以内に樹齢60年を迎えるという。区は15年度以降、専門家による診断を行い、腐食が進むなど倒壊する恐れがある34本を撤去した。

18年度以降は、碑さくら通りなど3道路の沿道で順次、保全や植え替えを進める。

区は14年3月に「サクラ基金」を設立して寄付金を募り、桜の保全費用として

活用している。区みどり公園課によると、17年12月末までに392件1218万円の寄付が寄せられた。区の担当者は「桜は市民の関心や愛着が特に高い。地元の方々と協力し、保全に努めたい」と話している。

■千代田区
樹齢60〜70年の木を多く抱える千代田区では、04年度から、区が管理する約1000本について、枝切りや肥料の埋めこみなどの取り組みを進めてきた。保全のための募金や再生作業などを手伝う「さくらサポーター」は昨年12月末現在、

498人、105団体まで広がっている。全国で桜の再生に携わっている樹木医の和田博幸さん(57)は、「環境にもよるが、樹齢が30〜40年を迎えた桜は診断をしたところ。樹齢を重ねた桜と美しい眺めを保つには、自治体や住民による入念な手入れが欠かせない」と指摘する。